

閑上地区での復興に向けた取り組み

株式会社かわまちてらす閑上 常務取締役 松野 水緒

1. はじめに

私個人について自己紹介させていただきます。私は仙台市中心部と東京で、宮城の牡蠣やホヤを名物とした居酒屋の運営、名取市の「かわまちてらす閑上」に飲食店舗を運営しています。11年前の東日本大震災では、地域が大きな被害を受け、復興のために飲食店として携われることはないのか模索し、三陸で大きな被害を受けた牡蠣やホヤの消費拡大を発信する飲食店を展開してまいりました。その中で、同じく壊滅的な被害を受けた名取市閑上地区で被災地活用のためのビジネスプラン公募をされていたため、飲食店舗のセントラルキッチン建設計画で応募したのをきっかけに関わり始めました。2012年に採択いただいた被災地活用ビジネスプランは閑上地区の整備が整った2018年に無事契約を結び、現在はホヤの加工工場として稼働しています。復興が一向に進まない期間が長く続き、閑上地区に対してただ待つだけの時間が流れるなか、「にぎわい創出事業」として名取川沿岸に商業地区を造成する計画を知りました。飲食業のノウハウを地域に活かしたいと、初期の計画段階から積極的に携わり、現在の役職を拝命し今も継続して尽力をしているところです。

2. 閑上地区

東北最大の都市・仙台市の南隣、名取市の沿岸部で、一級河川名取川の河口、日本最大の貞山運河が流れる、古くから住宅が建ち並ぶ地域です。伊達藩のお膝元の港として長い歴史を持ち、名取川では地引き網漁や舟運などが行われ、近年では赤貝の名産地として「閑上赤貝」は全国に出荷されていました。名取川の堤防沿いに立ち並ぶ「あんどん松」は樹齢200年を超え、江戸時代から灯台として活用されてきたといいます。仙台市民から見ても釣りに海水浴にと、とても身近な場所でした。永く、川と海と共に発展してきた街です。



津波による損壊を免れた「あんどん松」

震災前5000人強だった人口は2000人まで減少し、住宅が密集していた海に特に近い地区は非居住地区となりました。区画整備に時間がかかり、内陸に自宅を再建してしまったため戻って来られない住人も多くいます。商業も同様に、職住近接であった地域は分離せざるを得ない状況となり、住民の生活様式は元に戻ることはない状況となりました。



引用元：Google 社「Google マップ」

3. まちづくり会社「かわまちてらす閑上」

会社名	株式会社かわまちてらす閑上
代表者	代表取締役 櫻井広行
設立年月日	2017年9月1日
資本金	1,650万円(2022.4.1現在)
出資者	出店者25名一律10株 名取市60株 (一社)名取市観光物産協会20株
事業内容	商業施設の企画・運営・管理等、地域交流及び地域経済の活性化に資する業務

施設の名称「かわまちてらす」は、かわまちづくり事業で整備していただいた名取川に迫り出した壮観な眺めの親水護岸(テラス)と、川と共に生きてきた街を、あんどん松のように再び「照らす」存在になるという思いを込めて名付けられました。ロゴマークにもあんどん松、名取川、太平洋が描かれています。



建設地の整備は関上地区かわまちづくり事業で堤防側帯を盛土していただき、側带上と堤内地に2段の形で建設しました。

施設整備には経済産業省「津波・原子力災害被災地域雇用創出企業立地補助金」の交付をいただき、木造平屋建3棟に賃貸で23店舗（18社）が入居しています。同じく「グループ補助金」を利用して戸建店舗も4棟併設しています。こちらは借地として利用いただいています。



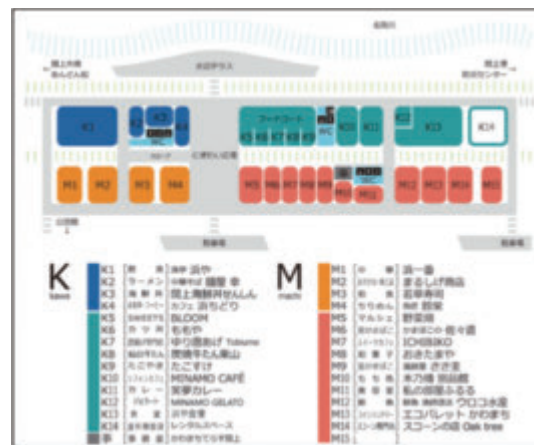
まちづくり会社として創設時に目標に掲げたのは、関上地区の「復興のシンボル」となるべく

- ① かつての関上商店街の再生
 - ② 地域住民の生活を支える役割
 - ③ 地域交流の拠点としての役割
- 上記の3点です。

① 開業時入居の20社のうち、関上地区で被災したのは7社。前述の通り、すでに再建を遂げていて地元からの出店者は少なく、賑わいを創出するための店舗数を確保するために県内外に広く公募し、多くは仙台市から出店、隣県の山形県や福島県からの出店者も複数社あり、建設直前まで募集をしていました。

② ①と重複する部分もありますが、関上のソウルフードといわれるラーメン店やカツ丼屋が再建され、八百屋、魚屋、コインランドリー、美容院など、地域住民のための生活関連サービス業も集まりました。

③ 宮城県や関上の名産品、グルメを取り揃え、名取川の絶景を眺めるロケーションと共に高い評価をいただき、県内外から観光客が訪れるようになりました。



名取市震災復興部（2020年解体）のサポートを得ながら、出店事業者が一体となって計画を進めてきました。震災から長い年月が経ち、住宅地だった街は様変わりしていて、成功することが確約されないこの地で大きな投資をすることは、中小企業にとっては大きな賭けでもありました。それでも進むことができたその根幹は、郷土への強い思いと、復興を支援したいという多くの協力者の思いに他ならないと思います。

震災から開業までの8年間仮設商店街で営業を続けた店、一度は関上から離れたにもかかわらず戻ってきた店、すでに内陸移転が完了していても支店として出店する会社、福島原発事故で宮城に避難してきていた会社、創業の地として初めて出店する若手経営者、利益を度外視して地域・施設のために投資する企業など、様々な環境下から集まった事業者が、今ではバラエティに富んだ様々なサービスを生み出してくれています。

株式会社かわまちてらす関上は出店者が同率で株を保有し、その中の代表者が取締役となり、取締役が中心となって施設運営を行っています。事務局に専任の社員はおらず、役割はすべて役員が分担して行っています。そのため手探りのことも多いものの、相談をしながらこれまで様々な取り組みをしてきました。

4. 主催した主なイベント

① 2019年7月7日、開業前から関上地区で活動をしていた「ミズベリングゆりあげ」が主体となり「水辺で乾杯」を大々的に実施。地元で大人気の歌手・さとう宗幸氏をメインゲストに、名取川をステージバックとしてコンサートを開催。多くの地元住民が集まり、7時7分で大勢での乾杯を果たし、10分間の打上花火も上がりました。





② 2019年9月14日、「かわまち夜市」と称した定期イベント開催。第1回は「納涼ビアガーデン＆カラオケ大会」として、たくさんの地元住民が集まり、震災前から盛んだったカラオケを開放的な屋外で楽しみました。10月20日、第2回は「カラオケ大会＆ハロウィンパーティ」。大人気のカラオケ大会と仮装大会を実施し、地元の子供たちが可愛い姿でテナントを回りました。同時開催で地元の大学生のよさこい演舞も披露されました。冬期の休止期間を挟んで春の再開を待望されていましたが、翌年から新型コロナウイルス感染症により休止が続いています。



③ 2019年11月9日、ミズベリングゆりあげ主催の「IMONI-1グランプリ」を開催。かわまちてらす閑上のテナントが自慢の芋煮の味を競います。その後、かわまちてらす閑上主催の定期イベントとして毎年秋に開催しています。



④ 2021年3月11日～、堤防上に献花台を設置し、たくさんの方が黙祷を捧げてくださいました。



⑤ 2021年7月18日、堤防天端を活用し、普段はあまり見ることの出来ないスーパーカーを展示しました。



⑥ 2021年11月22日、「芋煮WEEK」施設前の高水敷を活用し「手ぶらでBBQ」を実施。かわまちてらす閑上のテナント仕込みの芋煮と大自然に好評をいただきました。2022年度中には整地した高水敷をBBQ場として運営開始する予定です。



5. 場所を提供したイベント

① 2020年10月2日～3日、2021年10月2日～3日、「サイクルフェスタ」を開催。県内のサイクルショップが主催するスポーツ自転車の試乗イベント。堤防天端を活用し試乗コースを設置。絶景の中の試乗はサイクリストに毎年好評です。



② 2021年3月14日、「はるか2020」名取川の水を噴き上げウォータースクリーンにしてプロジェクションマッピングをするという大規模なイベントを開催予定でしたが、2020年はコロナ感染症で中止、2021年は降雨による増水で中止となりました。



③ 2021年9月19日～20日「関上匠の杜」宮城県物産振興協会が主催する工芸品の展示販売会。県内の伝統工芸品が一堂に会しました。

④ 年に3～4回の不定期開催、「Blissful Moment」という様々な音楽をしている方が集まる団体が企画。かわまちてらす関上を訪れる来場者に音楽を楽しんでいただいています。

6. 全国からの支援

① 2020年6月1日オープン、楽天野球団寄贈「関上こどもアスレチックパーク」連日家族連れに大人気のアクティビティとなりました。



② 2020年～「ひまわりプロジェクト」震災直後に東京の市民大学から生まれた取り組み。これまで関上の各地にひまわりを届けていましたが、復興が進み植えられる場所が無くなったため2020年からかわまちてらす関上にて引き継ぐことになりました。来場者の目を楽しませてくれています。



③ 2021年3月「大森杏子プロジェクト」二次元アイドルが復興のお手伝いをしたいといただいたコラボ企画。特産品がイラストに描かれています。



④ 2021年5月～海と日本プロジェクト主催の「ビーチクリーンアクト」で「BLUE」のモニュメントを設置、イベント終了後も残置していただき、現在はフォトスポットとして人気です。(7-③)

7. その他の取り組み

① 関上地区かわまちづくり事業により整備いただいた親水護岸に浮桟橋を設置し、2022年春より周

遊船「ゆりあげ丸」の運航がスタートしました。水深が浅いため現在も試験的に運航しています。



② 宮城県の補助金を活用し三輪タクシー「トゥクトゥク」を購入。臨時駐車場となっている「震災復興伝承館」との間の堤防天端を無料でピストン運行し、名取川を望みながら風を切って走る爽快感で好評をいただいています。メディア露出も多くいただいています。(土日祝日のみ運行)



③ 同じく宮城県の補助金を利用し、親水護岸の夜間ライトアップを毎日22時まで実施。夜の川面も美しいですが、ナイトコンテンツの不足により夜の集客には課題が残ります。



④ 他地域からの視察や地元小中学生の課外学習の受け入れ、県内の沿岸地域事業者と連携した観光コンテンツ造成などにも取り組んでいます。

⑤ 河川区域の維持管理のため、毎日の点検業務のほか、全テナントで週1回の定例清掃を実施、定期的に草刈りも行っています。

8. おわりに

このように、河川区域を存分に活かした様々な取り組み(社会実験)を行い、2021年3月18日に「都市・地域再生等利用区域」に指定いただきました。また、関上地区かわまちづくりは令和3年度の「かわまち大賞」を受賞しました。

官民連携して取り組んできた結果、水辺に親しみ、観光客で賑わう地域へと醸成してきたと実感しています。

今後、最大の魅力であるロケーションを活かし、新しい取り組みを継続していきたいと考えています。コロナ収束後のインバウンド獲得にも備えたいと思います。